

（配慮書 p. 191～192 で整理した環境区分をもとに、現地調査地点との対応を整理）

既存資料に基づく環境区分の状況は、図1に示すとおりである。

また、環境区分と現地調査を実施する地点等との対応は、表1に示すとおりである。

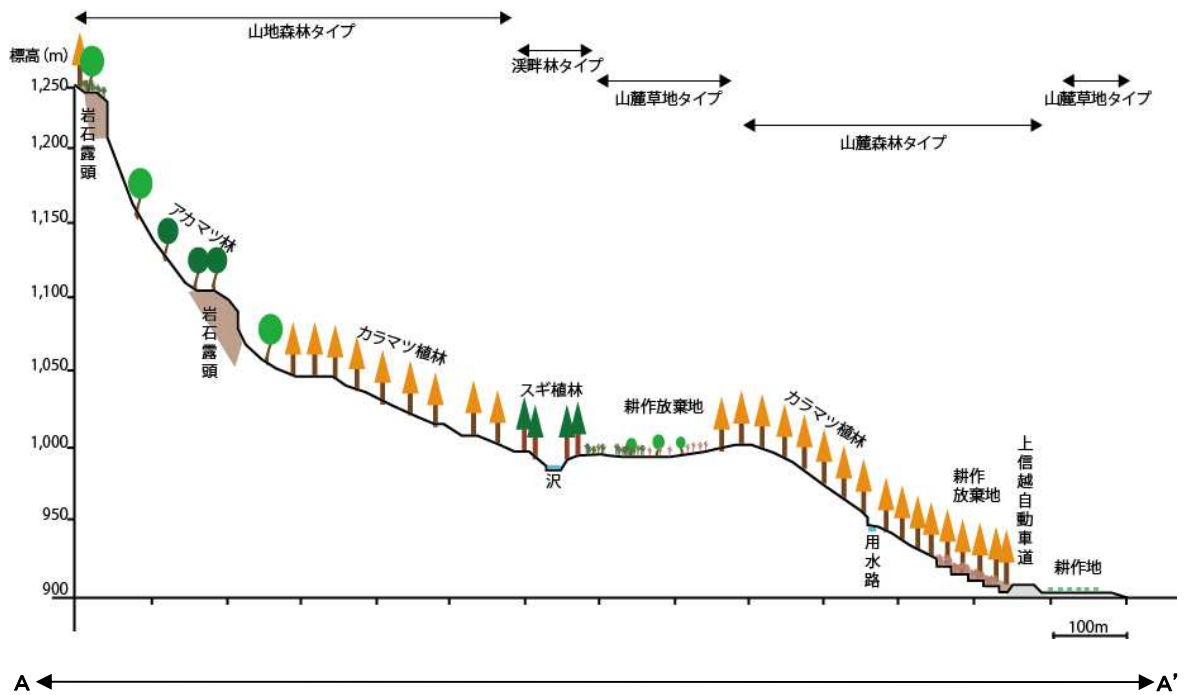
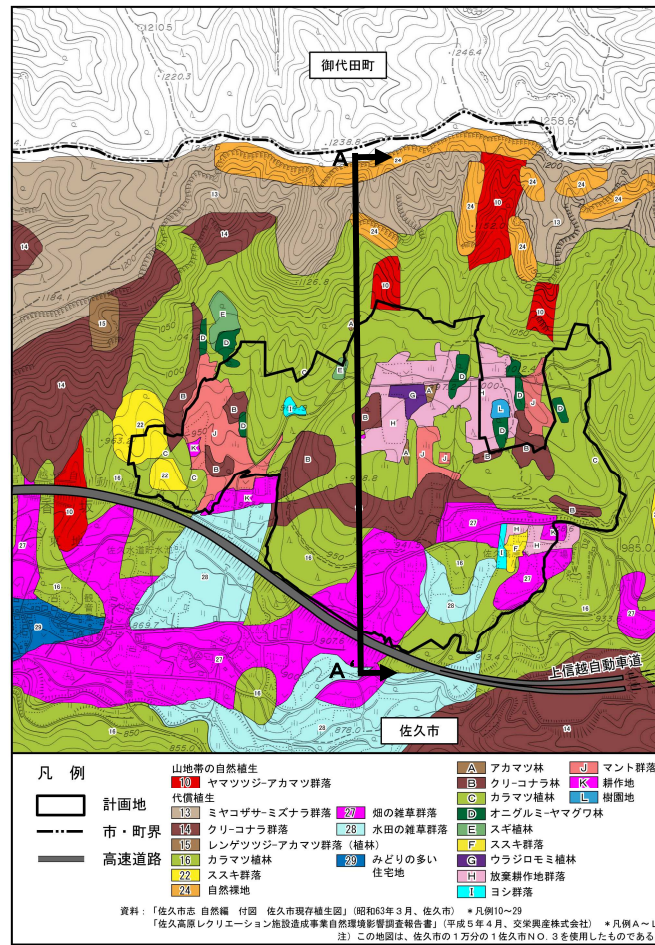


図1 計画地及びその周辺における生態系の構成の分布（断面模式図）

表1 計画地及びその周辺における生態系の構成（環境区分）と動物・植物現地調査地点との対応(1)

		山地森林タイプ	山麓森林タイプ	山麓草地タイプ	溪畔林タイプ
地 形		山地面	山麓面	山麓面～侵食段丘面	沖積低地面
地 質		志賀溶結凝灰岩 香坂層上部	香坂層上部及び香坂層下部 崖錐及び小扇状地堆積物	小扇状地堆積物 段丘堆積物	香坂層下部 河床堆積物
土 壤		岩石地 乾性～適潤性褐色森林土壌	漆黒ボク土壌	厚層腐植質黒ボク土壌	表層腐植質黒ボク土壌
水 象		水源涵養域	雨水浸透貯留域	雨水浸透貯留域、湧水	香坂川支流の沢
微気象		やや乾燥	やや乾燥	やや乾燥	適潤～やや乾燥
主な植生・土地利用		アカマツ林、ミズナラ林、 カラマツ植林、スギ植林	コナラ林、カラマツ植林、 アカマツ植林、ウラジロモミ植林	ススキ群落、 耕地（畑地水田放棄地含）	開放水面（沢）、スギ植林、 ケヤキ林、ハルニレ林、ヤナギ 低木林等
動物・植物 現地調査 地点との 対応	植物相	調査範囲を広く踏査し、植物相及びその生育環境を網羅的に把握できるように調査を実施。			
	植生	現地踏査により把握した植物群落ごとに代表的な地点で群落調査を実施。			
	群落調査地点 ^{注)} ※地点番号は方法書p. 207 図3.3.9-2に対応	St. ②, ④, ⑦, ⑪	St. ①, ⑤, ⑫, ⑬, ⑳	St. ⑨, ⑩, ⑭, ⑮, ⑯, ⑰, ⑱ ※St. ⑮, ⑱は林縁性の群落	St. ③, ⑥, ⑧, ⑲ ※St. ⑲は溪畔性の草地群落
	哺乳類	調査範囲を広く踏査し、ほ乳類相及びその生息環境を網羅的に把握できるように調査を実施。			
	シャーマントラップ ^{注)} 調査地点	主にネズミ類の生息確認を目的に設置するため、山地森林、山麓森林、山麓草地、畦畔林の各タイプを考慮しつつ、森林環境と草地環境が網羅されるように設置			
	モルトラップ ^{注)} 調査地点	主にモグラ類の生息確認を目的に設置するため、現地で確認されるフィールドサインを参考に設置			
	ビットホールトラップ ^{注)} 調査地点	主にモグラ類やネズミ類の生息確認を目的に設置するため、山地森林、山麓森林、山麓草地、畦畔林の各タイプを考慮しつつ、森林環境と草地環境が網羅されるように設置			
巣箱設置地点 ^{注)}	主にヤマネの生息確認を目的に設置するため、畦畔林と接する山地森林タイプと、山麓森林タイプに巣箱を複数個設置				
センサーカメラ設置地点 ^{注)}	行動圏の広い中型から大型のほ乳類の生息確認を目的とするため、現地で確認されるフィールドサインを参考に、調査範囲内に設置				
かすみ網設置地点 ^{注)}	主にコウモリ類の生息確認を目的とするため、現地で確認される飛翔経路等を参考に、道路沿道、あかみち、開けた沢、広場等で設置				

注) 生態系の環境区分は既存文献と現地概査に基づく設定であり、現地調査の結果区分が変わる可能性がある。また、各調査地点、センサー、トラップ 地点は、今後の現地調査結果等の状況を考慮し、補足的に地点を追加する可能性がある。

表1 計画地及びその周辺における生態系の構成（環境区分）と動物・植物現地調査地点との対応(2)

		山地森林タイプ	山麓森林タイプ	山麓草地タイプ	溪畔林タイプ
動物・植物現地調査地点との対応	鳥類	調査範囲を広く踏査し、鳥類相及びその生息環境を網羅的に把握できるように調査を実施。は、調査地の環境を網羅するようにセンサルトを設定。			
	ラインセンサルト ^{注)} ※ルート番号は方法書p. 212 図3. 3. 10-2に対応	山地森林、山麓森林、山麓草地、畦畔林の各タイプを考慮しつつ、L1, L2, L3の3本のルートで環境が網羅されるように設定			
	行動圏調査定点 ^{注)}	希少猛禽類の生息確認及び行動圏、利用状況等を把握することを目的とするため、計画地及びその周辺を広く確認できる地点を複数設定			
	営巣木調査範囲 ^{注)}	つがい等の行動から営巣木の存在が推定される範囲で調査を実施。※繁殖に係る行動等が確認された場合のみ			
	繁殖状況調査範囲 ^{注)}	営巣木及び営巣中心域等で調査を実施。※繁殖が確認された場合のみ			
	爬虫類・両生類	調査範囲を広く踏査し、爬虫類相、両生類相及びその生息環境を網羅的に把握できるように調査を実施。			
	昆虫類	調査範囲を広く踏査し、昆虫類及びその生息環境を網羅的に把握できるように調査を実施。			
	チョウ類センサルト ^{注)}	既存文献等で把握されているチョウ類の生息確認を目的とするため、山麓森林の林縁や山麓草地（放棄地等を含む）で、個体や食草等の状況が確認できるよう、センサルトを設定			
	ライトトラップ ^{注)} 調査地点、 ペイトラップ ^{注)} 調査地点 ※地点番号は方法書p. 213 図3. 3. 10-3に対応	St. 1 落葉広葉樹林	St. 4 混交林（コナラ林・スギ植林）	St. 2 ススキ草地	St. 3 オニグルミ林
	魚類・底生動物、淡水産貝類 調査地点 ※地点番号は方法書p. 214 図3. 3. 10-4に対応	—			計画地から流下する支川及びその合流地点周辺を選定。 香坂川本流No.1, 5 香坂川支流No.2, 3, 4, 6, 7
陸産貝類	調査範囲を広く踏査し、陸産貝類相及びその生息環境を網羅的に把握できるように調査を実施。				
調査地点 ^{注)} ※地点番号は方法書p. 215 図3. 3. 10-5に対応	St. 1	St. 6, 7, 9, 11, 12, 14	St. 8	St. 2, 3, 4, 5, 10, 13, 15	

注) 生態系の環境区分は既存文献と現地概査に基づく設定であり、現地調査の結果区分が変わる可能性がある。また、各調査地点、センサルト、トラップ地点は、今後の現地調査結果等の状況を考慮し、補足的に地点を追加する可能性がある。